

Abortion: The Innocent Blood of Our Sons and Daughters

幼児墮胎：わたしたちの息子、娘たちの無実の血

Psalm 詩篇106:32-48 January 27, 2008

2008年1月27日

詩篇106篇はイスラエルが何度も犯した罪と、そのつど何度も罰し、でもゆるしてくださった神様の処罰と憐れみに焦点をあてたイスラエルの歴史である。詩篇106篇は旧約聖書のミニチュア版だと言えるだろう。ここには、究極的な、そして長期的な何かを求め叫んでいる姿が描かれている。この詩篇の最後の2節には「お救いください、ああ、我らが神、主よ。国々の中から私たちを集め、私達があなたの聖なる名に感謝をささげ、あなたの賛美をほめたたえるために。とこしえからとこしえまで、イスラエルの神、主に祝福あれ。すべての人々が『アーメン。主を賛美せよ。』というように。」と書かれてある。

御承知のように、これは何も新しいことではない。例えば士師記の時代には、イスラエルの民は助けを求め何度も何度も主の名を呼んだ。そのつど神は彼らを救われた。神は憐れみ深く、恵み深く、怒るのに遅いお方である。しかし人々は不真実と不従順を繰り返すのである。まさに旧約聖書の終わりのように、この106篇の最後も、もっと深いものを求めて叫んでいるのである。106篇も旧約聖書もこれ自身では不完全なままである。この「何か」を切望する姿は、未来に向かっていて、ここで読みきり完結なのではなく、いわば約束の本または話なのである。

イエス：神の決定的な「然り」と「終結」

新約聖書が存在するのはそのためである。それは、最終的で、完全で、決定的で、永遠に続く神による救いは、メシヤ（救い主）であるイエスがこの世に来たときに起こったからである。イエスは最後のアダム（ローマ5：12-21）、モーセと同じく最後の預言者（使徒3：22、7：37）、最後の過ぎ越しのいけにえの小羊（1コリント5：7）、天からの最後のマナ（ヨハネ6：31-32）、イザヤ書53章の最後の苦難の下僕（マルコ10：45）、そしてダニエル書7章の最後の人の子（マタイ24：30）なのである。彼の流した血はエレミヤ書31章31節に書かれている、約束された最後の新しい契約の血（ルカ22：20）であり、それゆえに、イエスは神のすべての約束に対して最終で決定的なYes 然りとAmen終結なのである（2コリント1：20）。

そういうわけで、詩篇106篇のような旧約聖書のなかの話を読み、最終的な解決が決して得られないような圧迫する罪の重さを感じる時、私たちは「すべてはキリストを示しているのだ」と考えるべきである。これは、クリスチャンがユダヤ人の聖典を解釈しなおしているのではない。これは神がユダヤ人の聖典の完結を啓示しているのである。ユダヤ人の聖典とイスラエルの長い歴史はそれ自身には結論はない。キリストが結論なのである。

神は来られた、その名をイエスという

つまり、「お救いください、われらの神、主よ。」との叫びで47節が終わるとき、今日の我々は「ああ、アブラハム、イサク、ヤコブの神、主よ。われわれの敵が上手をとっているとき、われわれ捕囚の民をお救いください。われわれを最悪の敵から永遠に救い出し、われわれの罪

の最終の償いとなり、われわれの心に掟を刻まれる王の到来を早めてください。そうすれば、われわれはもう二度と反抗せずいつまでも彼を恐れるでしょう。」と考えるべきである。

そして、私たちがその叫びを聞き、意味を理解するとき、彼がすでに来られたので私たちは喜ぶべきである。彼の名はイエス。彼はユダヤ人の聖典に書かれてある長いこと不明瞭であった神秘を解き明かしたのである。それは、彼の死とよみがえりによって、ユダヤ人だけでなく世界中の国民が、イエスを信じる信仰により、その罪赦され、義とされ、聖められ、神との和解を受けることができるようになったのである。

十字架の旗

言い換えれば、この詩篇106篇とここに書かれた現代にもよく当てはまる恐怖と失敗のすべての上を舞っているのは、罪のために死なれ、罪責と断罪と死と地獄を征服なされたこの世の最後の救世主であられるイエスキリストの旗である。そしてこの旗は「神である主よ、私を救ってください。」と心から叫ぶすべての人のためである。

墮胎に関するこのメッセージの上を舞っているのもキリストの十字架の旗である。その色は朱色。なぜならキリストの血が墮胎の罪と、そのことに関して無関心であることの罪を拭い去ってくださるから。今日のメッセージはただ単に悔い改めをうながし、ゆるしを提供して終わるのではない。そこから始まるのである。今日の箇所を私が説明するときそのことを頭の隅においてもらいたい。

イスラエルの罪

まずは箇所全体を見てから、無罪の血の犠牲について焦点をあててみようと思う。まず第一にイスラエルの罪、そして神の怒りと裁き、そして救いへの叫びと、この順番で行きたい。ではまず、イスラエルの罪から。

32節 メリバのほとりで、イスラエルの民は飲み水がないことでモーセにつぶやきます。挑発させられたモーセは岩に「語りかける」ことをせず、岩を「たたいて」しまいます。そして神は、モーセが神を信ぜずその御名を聖別しなかったことで怒ります。（民数記20：11-12）

34節：イスラエルの民は神に命じられた通りにカナンの人たちをほろぼしつくさなかった。神がカナン人を絶滅するように命じたことから、一般的な殺人に対する反対と子供を捧げることに対する反対は別のことであることが見受けられる。殺人が正当化される時と場合はある。このイスラエルの歴史の中でも身の毛がよだつような瞬間の説明は申命記9章4節に書かれている。神は言った。

あなたの神、主が敵をあなたの目の前から追い出した後で「私の義のゆえに、主はこの地を私に与えてくださった」と心の中で言うな。あの国々の罪のゆえに主はあなたの目の前から彼らを追い出したのだ。

イスラエルのこの時代では、神は裁きをもって民をふりまわされた。これと同じような裁きに関して、私たちはその時代の人々と同じ思いをしなくてもよい。なぜならイエスキリストが来たことにより物事は根本的に変わってしまったのだから。「私の王国はこの世のものではない。もしこの世のものであったら、私のしもべたちは戦わなければならなかつたろう。（ヨハネ 18：36）」 私がここで言いたい点は、幼児を殺すことに対しての神の怒りは、肉体的な乱暴や暴力を感傷的に拒絶しているのではないということである。神が拒絶する違う理由があるのだが、それに関しては後ほど述べることにする。

35節「彼らは国々と交わり、彼らの習慣をまねた。」ここでの真の問題は異人種間結婚ではない。これに関しては昨年、人種の調和の説教で重きを置いた。真の問題は、「交じり合う」ことにより異教徒がしていることを真似たということにある。

36節には何が起こったかが簡単に書かれてある。37節には墮落を表現するその罪が明細に書かれている。「彼らは偶像に仕え、それが彼らの落とし穴となった。」これが異教の国々と交じり合うことを神が禁じた最も重要な理由である。これは彼らに真実の神を捨てさせ、偶像を拝むという偶像礼拝に導いたのである。この詩篇の作者がいうように、これらの偶像が「落とし穴」になったのである。偶像が彼らを絶滅に導いた。37節から39節には、偶像礼拝によってもたらされた罪深い行動内容が細かく書かれてある。「彼らは息子や娘たちを悪魔にいけにえとしてささげた。罪のない血、カナン偶像のために捧げられた息子や娘たちの血を流し、その土地は血によって汚された。こうして彼らは彼らの行いによって自分たちを汚し、その行為で売春を犯した。

神の怒りと審判

これは非常に強烈な言葉である。神の言葉である。神は大変怒っているのである。40節と41節には「主の怒りはその人々に対して燃え上がり、自分の選民を忌み嫌った。神は彼らを国々の手に引き渡したので、彼らを嫌う者たちが彼らを支配した。」偶像礼拝は民を落とし穴に導き、落とし穴である宗教行為のために民は自らの子供たちをいけにえとして捧げた。この行為は神の目には霊的な売春行為であり、主の怒りが燃え立ち、審判が下ったのである。

この言葉の恐怖を感じ取らなければならない。「いけにえ」「悪魔」「罪のない血」「汚された」「売春」「主の怒り」「自分の選民を忌み嫌う」。この詩篇の作家がしたように、私達も今日このような言葉を使うときに「罪人には希望がない」などという間違った考えを植えつけないように、主の力を感じ取る必要がある。「希望はある」ということがこの詩篇の最もすばらしいところなのである。

救いの叫び 4 4 編

「しかし、彼らの叫びを聞かれたとき、彼らの苦しみをごらんになられた。彼らのために、主ご自身の契約を思い出され、主の溢れるばかりの不動の愛のゆえに怒りをおさえられた。「驚くばかりの恵み、私のような汚れたものを救った甘い響きよ。（邦詞：「驚くばかりの恵みなりき、この身の汚れを知れる我に」※聖歌 229）それゆえに、私たちはこの恵が、驚くべきばかりの甘い響きを伴うために、強烈でひどい神の言葉を理解しなければならないのである。

そして、この詩篇の作家が子供のいけにえを真剣に見つめていたように、私たちも墮胎について学ばなければならない。この詩篇の作家がそうしたように、真実を包み隠さず知る必要がある。Abort73から出ているビデオや (<http://www.abort73.com/>)、beautiful pictures of the unbornなどを見る必要がある。1973年以来アメリカ合衆国だけで4千万人の赤ちゃんが墮胎手術により殺されているということや、墮胎手術をする9割の医院が都市近郊にあり、有色人種などの少数派の民族の子供たちが大勢殺され、それによって「墮胎賛成派」のグループの人たちが考えもつかないような多民族抹殺が行われている、などという統計を知る必要がある。

生々しい言葉が必要な罪

この詩篇は写真やDVDに劣らないくらい生々しい。要点は、「ある種の罪は生々しい言葉や写真なしでは理解できない」ということである。一度、ミネアポリスの地方新聞で読んだことがあるが、もしアメリカ国民全員が死刑執行（電気椅子もしくは注射による毒の注入）のシーンを見させられたら、死刑は廃棄されるであろうとのことだった。それが本当かどうかはわからないが、もし本当だとすれば、幼児墮胎に関してはそれ以上にちがいない。もし私達が、まるで歯医者が患者の口から脱脂綿を取り出すように、医者が小さな赤ん坊の足や腕を一つ一つ取り出してテーブルに置くのを見るなら、もし本当にすべてのアメリカ人が墮胎手術で何が行われているかを見させられるなら、プロライフ（墮胎反対派グループ）の人たちが抱いているゴール、つまり幼児墮胎が違法行為だけではなく、考えも着かないようになるというゴールはもっと間近になるであろう。

幼児墮胎との4つの対比

この詩篇は幼児いけにえに関して生々しく語っている。ここでは少なくとも幼児墮胎との4つの対比が見られる。

1. 「いけにえ（犠牲）」と呼ばれている

まず第一に、これは「Sacrifice いけにえ（犠牲）」と呼ばれている。37節に「彼らは彼らの息子や娘たちをいけにえ（犠牲）にした」と書かれている。いけにえ（犠牲）とは、大抵の場合何か価値のあるもの（例えば羊や雄牛など）を、それ以上に価値のあるものを（得てして神のような存在のものから）手に入れるために捧げるものである。アメリカでの墮胎手術は、意識的に神からの祝福を得ようとして行われてはいない。しかし、赤子よりも「より価値のあるもの」を手に入れるために行われている。それが討論の根本的理由である。得たものははたして失ったものよりも大きいだろうか。私たちはそこを正しく理解する必要がある。子供の命は別の物のために犠牲になっているのである。その別の「何か」が私たちの文化の野蛮さを物語っている。私は、予定外の妊娠が想像も出来ないくらい大変であるということをや非常によく理解したうえで言っているのである。それを軽くは見していない。ただ、問題は子供のいのちがいかに尊いか、そして、神が道を用意されるということを私たちが信頼するか、というところにある。そのためにCrisis Pregnancy Centers（望まれない妊娠をした女性たちを援助する団体）は熱心に働きかけているのである。

2. 捧げられたのは息子や娘たちである

二番目に、この詩篇の中でいけにえにされている子供は、私たちの息子や娘たちと書かれている。37節「彼らは彼らの息子や娘たちをいけにえ（犠牲）にした」ここでただ単に「子供たち」と書くこともできたのにあえて「息子と娘たち」と書いたのである。これにより2つのことに注目させられる。

1. 性別に違いがあった。つまり捧げられたのは小さな男の子と女の子たちである。
2. 家族の一員であった。捧げられた赤ん坊は家族である。幼児墮胎でも同じことがいえる。いつでも小さな男の子か女の子であり、いつでも家族の一員なのである。

3. 罪のない血

三番目に、この詩篇の著者はここで行われているいけにえを「罪のない血」と呼んでいる。38節「彼らは無実の血、彼らの息子たちや娘たちの血を流した。」罰せられなければならなかったカナン人と守られるべき赤ん坊たちの間には大きな違いがある。この文は原罪について語っているのではない。これは私たちがみな裁判所で頼りにする、しごく一般的な法律上の文章である。「今自分に課せられようとしている処罰を受けなければならないようなことを、はたして自分はしたのだろうか？」赤ん坊は他のどの人たちよりも無実である。間違った扱いを受ける（殺される）ようなことは何もしていないのである。

ただ神お一人だけが、命を与え、それを取る絶対的な資格を持っている。もし、神が小さな子供たちの命をとられたら、その子供たちが知りえる限りの知識にしたがって子供たちを対処するのである（ローマ1：18-20）。私個人的としては、小さくして命を落とした子供たちは天国に行ったと信じている。だが、私たちに子供たちの命を奪う資格はない。私たち大人と比べたら彼らは無実なのである。もし私たちが彼らの命を奪ったら、私たちは罪を犯しているのである。

（時間の都合によりここでは短くだけ説明する。）もし、不幸な異変や災難などにより、神がすでに母の胎でその子供の命をとろうとされているのなら、もしくはその子供は母の胎を出ては生きられず子供を胎に残すことが母親の命を脅かすのなら、その様な状況であるなら、母親を救い子供の命を奪うことは神に対しても子供に対しても罪を犯しているとは、私は思わない。しかし、99%以上の幼児墮胎はそうではない。

4. 悪霊に対して行われる

四番目に、この詩篇によると、この無実の血は悪霊と偶像に対して捧げられたと書かれている。37節38節「彼らは息子や娘たちを悪霊に捧げた。無実の血を、彼らの息子や娘たちの血を流した。」第一コリント人への手紙10章19節20節で、使徒パウロは偶像と悪霊との関係を扱っている。「それでは私は何を言おうとしているのだろうか。偶像にささげられた食物に、もしくは偶像自体に意味があるとでも言おうとしているのだろうか。いや、あの偶像礼拝者たちが捧げているものは、神にではなく、悪霊に捧げられていると言っているのである。私はあなた方に悪霊との関わりを持ってもらいたくないのである。」

言い換えれば、パウロは全ての偶像の裏に、真実の神ではなく、偶像礼拝を促進する悪霊の世界を見ているのである。つまり、礼拝者に知られることすらなくこれらの悪霊は人々がみついでいる捧げものを受け取っているのである。2年前、カトリックとプロテスタントが合同で「彼

らが命を得るために (That They Might Have Life) 」という文書を出した。それには、幼児墮胎に関して次のように書かれている。

この道徳的残虐行為に対する多くの人を盲目にさせている理由は多くあるが、最終的にはサタンによる悪への誘惑であるということにさかのぼる。「彼 (サタン) は初めから殺人者で、真実とはなんの関わりもない。なぜなら、彼の中には一つの真実もないからである。彼がうそをつくとき、彼は自分の自然の性質に基づいて話すのである。それは彼がうそつきであり、すべてのうその父であることによる。(ヨハネ8:44)」

これは真実である。とどのつまりは、今日私たちの息子や娘たちを捧げることの真髄は悪霊への捧げものを行っていることなのである。今の西洋の文化のなかで、偶像礼拝の宗教的な部分は捨て去られてしまっている。悪魔は非宗教的な現在にはそれにあわせてことを行っている。そうでなかったらとっくの昔に用無しの笑いものの存在になっているであろう。そして、もちろん悪魔は彼自身ではなく私をも笑いものにしたいので、幼児墮胎は本当のところは非常に悪魔的であるにもかかわらず、非常に非宗教的で、非常に理にかなっていて、非常に世俗的で、非常によく聞こえたりするのである。

幼児墮胎：悪霊に捧げられた息子や娘たち

幼児墮胎は悪霊に私たちの息子や娘を捧げていることである。そしていつの日かそれがはっきりとわかるであろう。そしてその時、アフリカの黒人奴隷制度があれほど長く続いたということが今の私たちにとって大変な驚きであるように、幼児墮胎の合法が長く続いたことを驚くのであろう。幼児墮胎の問題は、奴隷制度と同じくらい明らかである。その当時の人たちが奴隷制度の問題点に対して盲目であったのと同じくらい、現在の私たちは幼児墮胎の問題に対して盲目なのである。大きな違いは、赤ん坊は逃げる事が出来ないということである。墮胎されようとしている赤ん坊にとって、地下鉄道 (南北戦争以前に南部に住む奴隷を北部の自由州やカナダへの脱出を助けた秘密組織) は、あなたなのである。

この件に関して、勇気をもって立ち上がり、世に影響を生じさせるための強さは、幼児墮胎の、恐怖で目をつぶりたくなるような事実からだけ来るのではなく、44節45節の言い表すこともできないような恵みからである。「それにも関わらず (つまり、悪霊に自分たちの子供たちを捧げているにも関わらず)、神は彼らの苦しみをごらんになられ、彼らの叫びを聞かれた。彼らのために、神はご自分の契約を思い出され、不変の愛の豊かさによって (彼らに対する怒りを) 和らげられた。」この愛を受ける全ての人の為にイエスキリストが達成させようとしたことである。

挑戦に応じる

幼児墮胎の恐怖と神の栄光があなたに語り、祈りの課題の挑戦に応じるように、そして、あなた自身がこの世とあの世での命のために、現実的に行動をおこすように祈る。アーメン

弱きものと、親のいないものに公正を与えよ

苦しんでいるものと乏しいものの権利を守れ

弱者と貧乏人を助け出せ

彼らを悪しきものの手から救い出せ

(詩篇 82 : 3 - 4)

翻訳 愛咲えみ